

Title	語文 第29輯 編集後記/奥付
Author(s)	
Citation	語文. 1971, 29
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68595
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

編 集 後 記

大養教授が停年で退官されてからもう一年になる。本号はその記念の意をこめて編集されたものであるが、ご多端の中を寄稿して下さった会員の方々に厚く御礼申しあげたい。実はもう少ししにぎやかな寄稿を期待していたので、いささか残念というのが本音であるが、昨年はなお諸大学とも多忙はつづいていたので無理は申せないと思っている。論考の代りに思い出草をと申し越された方もあったが本誌の性質上はたせなかつたことをお許し願いたい。わずかに管での同窓、また本学での同僚であった林教授の文章をいただくにとどめたが、さすがに深く識る人の言葉として、この一文の中に自己の印象、思い出を読む思いをされる方はぎっと多いであろう。

大養教授の研究論文は九十余篇に上ると承わりますが、本誌には割合ご縁が薄く、第一輯の「秋山われは」、第九輯の「高市黒人」の二篇である。しかし研究室や国文学会の行事には一度も——おそらく一度も休まれたことはなかった。春秋二回の遠足や夏の見学旅行にもお忙しいスケジュールを工面して必ず駆けつけて下さったものである。学生諸君を歓喜させたものは、あの高名な、教授の万葉旅行会ばかりではなかった。そういったことすべてに手の及ばない貧しい編集であるが、教授のご寛恕を乞いたいと思う。

¥ 100

発行所 大阪市南区横堀7丁目19 文進堂 振替大阪112730番 電話船場(251)1990番
編輯者 大阪府豊中市待兼山町1 大阪大学文学部国文学研究室 代表 池上 禎 造